

## 札幌で最初の洋式ホテル

# 豊平館

中島公園にたたずむ明治期の洋館、豊平館。明治・大正・昭和三代にわたる天皇の行幸の宿泊所にもなったこの建物の歴史をたどります。

北の都として開拓が進められていた明治の初め、札幌には東京などからの来賓を泊める旅館がまだありませんでした。そこで明治十一年（一八七八年）、現在の市民会館（北一西一）の場所にモダンで豪華な洋式ホテルを建設することが決められました。

建設にあたっては開拓使の建築技術者安達喜幸あだちきこうらの手によって念入りに設計がなされた上、東京から職人が呼び集められて十二年（一八七九年）初春に着工しました。木材は豊平川上流域から伐採され、開拓使木材乾燥場で十分に乾燥されたものが使われたそうです。また、札幌農学校教師ペンハローの石切山調査によって採掘された硬石が地階に使用されました。そのため、豊平館は、札幌で初めて札幌硬石を使用した建築物といわれています。

こうして十三年（一八八〇年）、豊平館が誕生しました。米国風様式を基調とする木造建築で和風建築の要素もみられます。

豊平館という名前は、札幌が北の都として豊かで平和に発展するようにとの願いを込め、豊平川の清流にちなんで名付けられたといわれています。

十四年（一八八一年）、明治天皇の北海道行幸の行在所ぎょじよ（宿泊所）にあてられて以来、皇族や貴賓の宿泊所として利用されました。

昭和に入ってから、軍の占有時代や進駐軍による接収など豊平館にとつて厳しい時代もありました。

昭和三十三年には、市民会館を現在地に建設するため、豊平館は中島公園に移設されました。

移設後の豊平館は、北海道大博覧会の郷土館と美術館として使用された後、現在は結婚式場として多くの市民に利用されています。

夕やみの中、ライトアップされる白亜の豊平館。前庭には咲き競うように満開の桜が風に揺れ、池の水面にその影がゆらめく。一年の中でも、五月の豊平館は、開拓時代を感じさせる桜の名所です。

（平成十年五月号・第四十五回）



現在の豊平館と菖蒲池